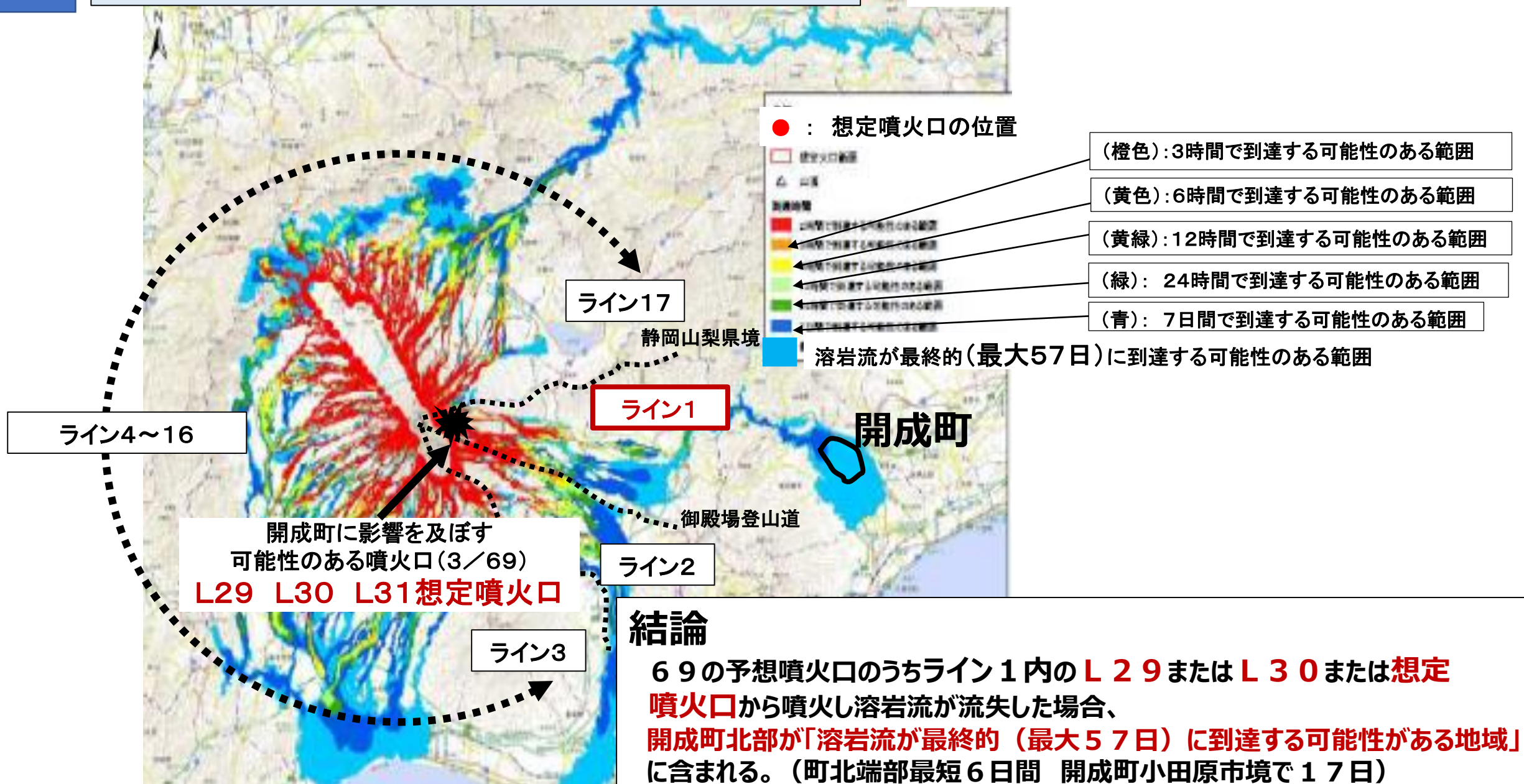
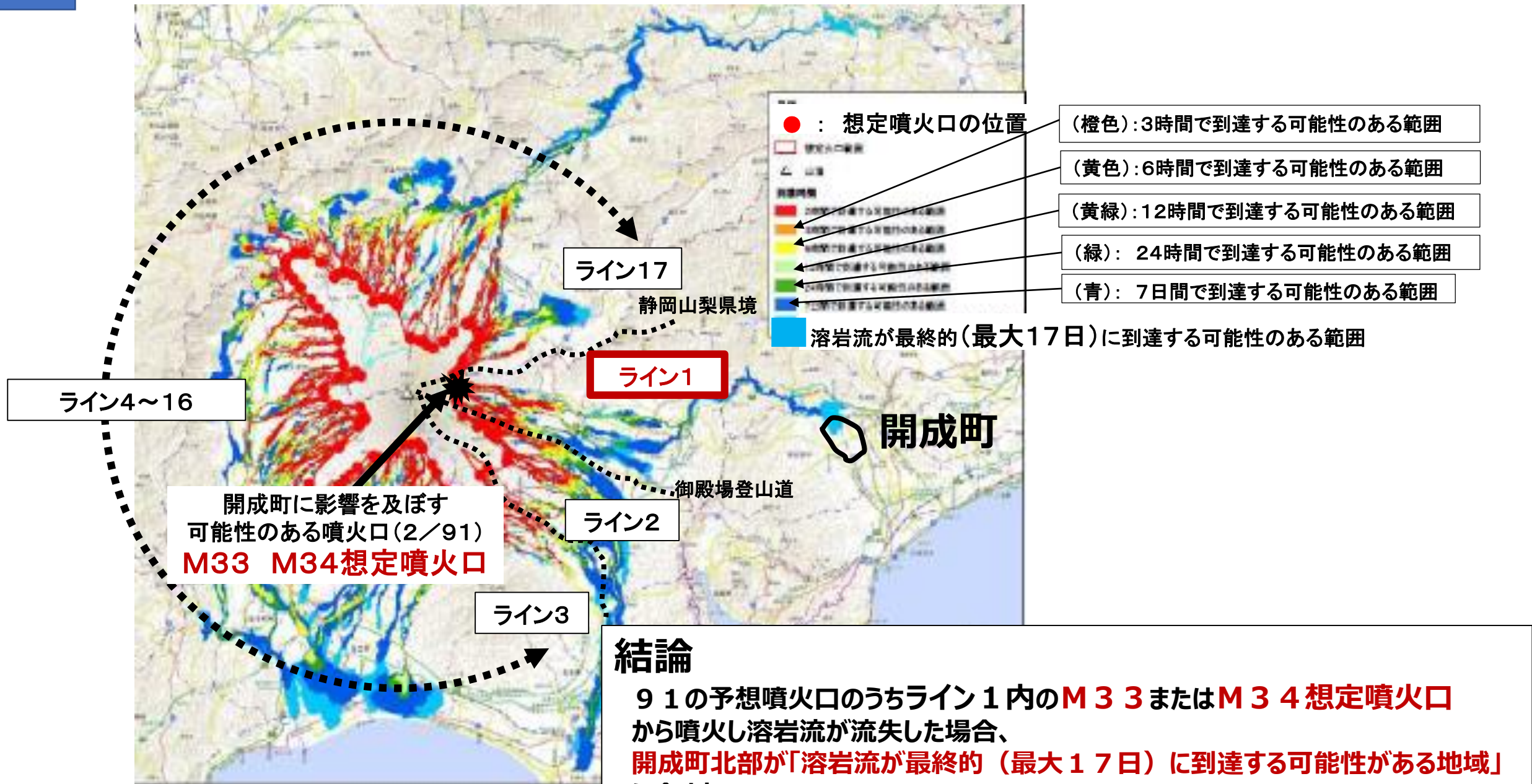


# 大規模噴火（最大13億 $m^3$ の溶岩流の流出）

溶岩流の速度：人の歩行速度より遅い。





「改定ハザードマップの基礎」となった富士山噴火について  
(富士山火山防災協議会資料より)

※：噴火活動が活発で現在の円錐形の火山体の形成時期

● 過去**5600年間** (富士山火山地質図：須走-b期<sup>※</sup>～現在) の噴火**175回**に基づき作成

噴火規模	噴出量	回数	発生割合	備考
小	2000万 <sup>m<sup>3</sup></sup> 未満	86	49%	
中	2000万 <sup>m<sup>3</sup></sup> ～2億 <sup>m<sup>3</sup></sup> 未満	82	47%	
大	2億 <sup>m<sup>3</sup></sup> 以上	7	4%	①貞観噴火(864～866年：13億 <sup>m<sup>3</sup></sup> ) ②宝永噴火(1707年：6.8億 <sup>m<sup>3</sup></sup> ) ③大室山片 <sup>※</sup> 山噴出物(約3300年前：3.5億 <sup>m<sup>3</sup></sup> ) ④日本ランド溶岩流(約4000年前：2.9億 <sup>m<sup>3</sup></sup> ) ⑤剣が峰噴出物(約2300年前：2.4億 <sup>m<sup>3</sup></sup> ) ⑥S-13噴出物(約3200年前：2.2億 <sup>m<sup>3</sup></sup> ) ⑦S-10噴出物(約3500年前：2.0億 <sup>m<sup>3</sup></sup> )

大規模噴火：5600年間で1回

中規模噴火以上：5600年間で7回

## 結論

中・大規模噴火であっても溶岩流が**開成町に到達する可能性は限りなく低く**、むやみに恐れる必要はないと考えられる。しかし、改定ハザードマップの基礎となった溶岩噴出量は、過去の噴火履歴をもとに想定されたものであるため、**最悪の事態として日頃から備えておくことが重要である。**